

BUSINESS

ビジネストーク

TALK

「循環型・共有型社会」

頭取 高橋 祥二郎



これまでにも、その実現を目指したさまざまな取り組みが行われてきましたが、時間の経過とともに少なからずその意識が希薄化しているのでは、と私は危惧しています。眼前の「少子高齢化」「東京一極集中」「社会の格差拡大」などの深刻な問題を克服するには、今こそ「生活者視点」はもちろん、未来を生きる「若者視点」からも、「持続可能な社会」の実現を徹底的に考え抜く必要があると考えます。

「持続可能な社会」の実現には、未来を拓く^{ひら}新しい物づくりや斬新なサービスの開発につながるイノベーションが必要です。IT(情報技術)でスマホが生まれ、eコマース(電子商取引)の普及で革新的な物流システムなどが進化したからこそ、リユース市場の拡大や共有型社会の実現につながっていることを、私たちは忘れてはなりません。

また、「持続可能な社会」を目指して、物を大切にする「活かす」「魂を込める」「供養する」など、日本人が誇るべき「精神」が活かされる時代が到来したともいえます。

自戒を込めて敢えて申し上げるなら、新たな視点をもって、今一度経営資源たる「ヒト・モノ・カネ」を活かし(あるいは「生かし」)、その力や魅力、価値をよみがえらせる、そのような経営センスが問われている時代かも知れません。

日本では「Reduce(リデュース:廃棄物等の発生抑制)」「Reuse(リユース:再利用)」「Recycle(リサイクル:再生利用)」の「3R」の考え方が導入されています。形成すべき「循環型社会」の姿を明確にした「循環型社会形成推進基本法」(2001年施行)で提示されました。「3R」は一気に普及・拡大とはなりませんでした。最近、リユース市場の活況という形で社会に浸透しています。家具、宝飾品、古民家などの「再利用」は、住宅リフォームも含めて大きな市場を形成し、近い将来には10兆円市場、との予測もあります。

一方で、物を所有することなく共有し合う「共有型ビジネス」も、物の所有に魅力を感じない若者を中心に急拡大しています。「それでは新しい物が作れない、売れない」「経済が成長しない」との声が聞こえてきそうですが、「安全・安心・便利・豊かさを求める社会的ニーズは無限にあり、資源を無駄遣いすることなく応えられる点においても「共有型ビジネス」は、今後ますます成長、拡大するものと思っています。

20世紀はまさに物を作り、費消することで成長、発展した「大量生産 大量消費・大量廃棄」の経済社会でした。しかし、環境問題が山積する現代にあつては、物を活かしながら豊かさを享受する「持続可能な社会」の実現が求められています。